

Overview

Our History

医療分野の進化の歴史

世界初の実用的な胃カメラを開発

東大第一内科の医師と当社技術開発陣との共同開発で胃カメラ実用化に成功。ファイバースコープの登場で胃の中を直接リアルタイムで見ることが可能に。

外科事業への参入

内視鏡が外科治療にも使われることを想定し、1979年にドイツの硬性鏡メーカーを買収、外科内視鏡分野に本格的に進出。

ビデオスコープで新時代へ

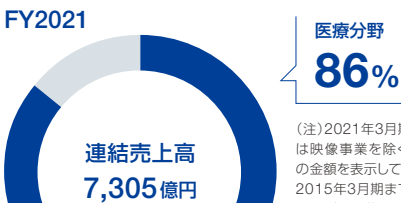
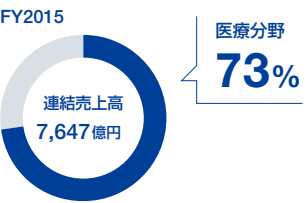
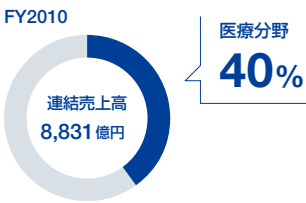
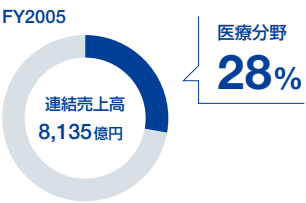
先端部にCCDを組み込んだビデオスコープにより、画像をテレビモニターに表示し、複数の医療従事者が観察状況を共有可能に。

「内視鏡外科手術」の発展

HD画像の外科内視鏡や、高周波と超音波を同時出力する世界初の外科手術用エネルギーデバイス、3Dや4Kの外科内視鏡等、革新的な製品を順次投入。

特殊光観察で「光を診る」時代へ

「NBI（狭帯域光観察）」の開発等、技術的な進展が加速。内視鏡は観察だけではなく、治療や処置の役割も果たす医療機器として進化。



(注) 2021年3月期の売上高は映像事業を除く継続事業の金額を表示しています。2015年3月期まで日本基準。2021年3月期はIFRS基準

■ 医療分野
■ その他

内視鏡事業



治療機器事業



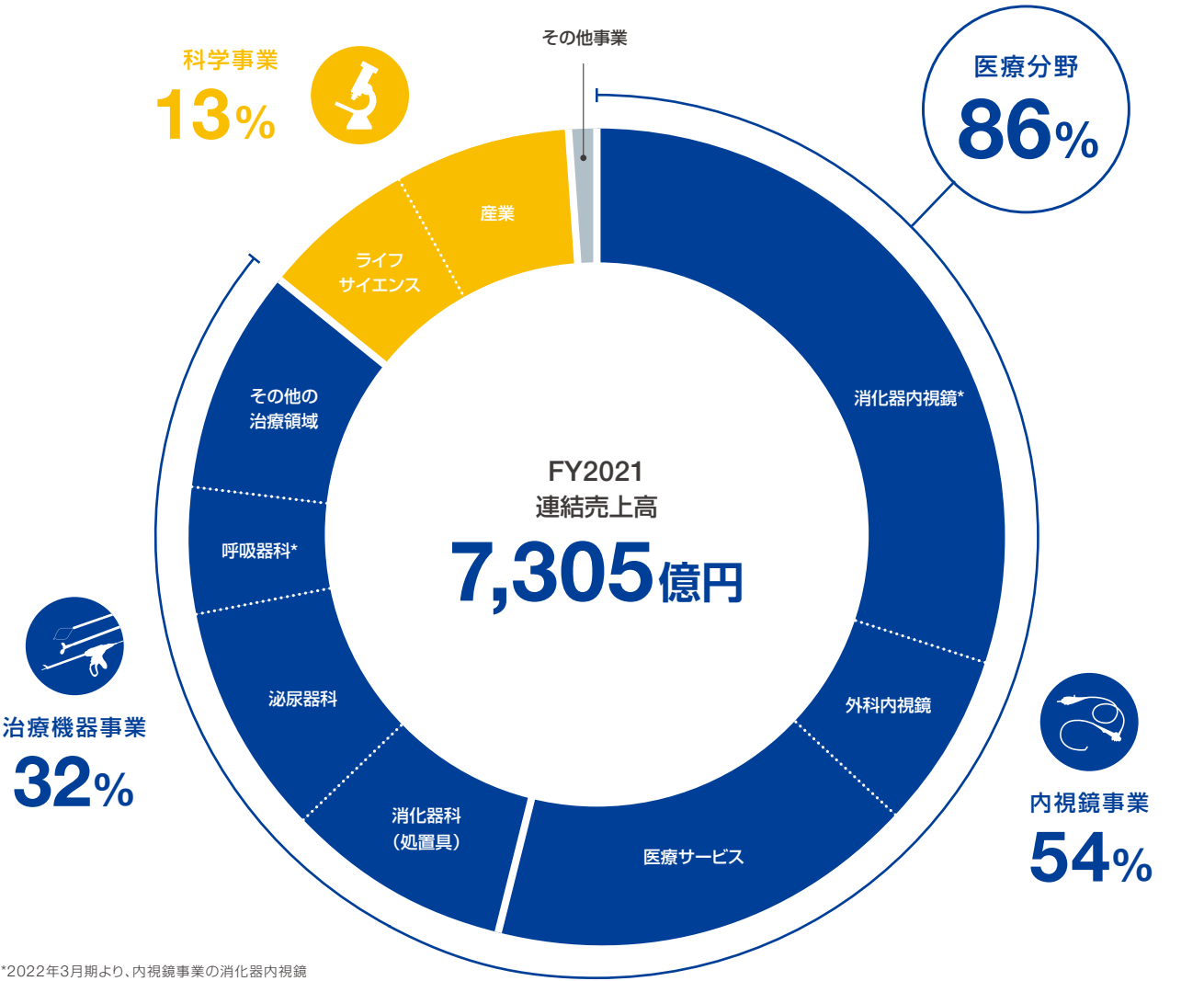
科学事業



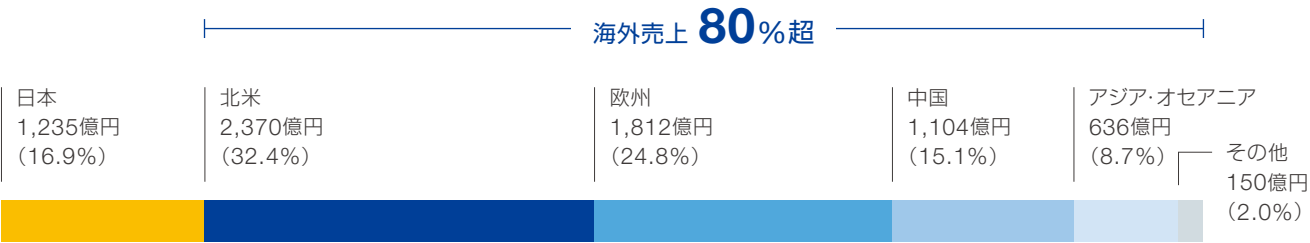
*2021年9月末時点で医薬品医療機器等法未承認品です。



At a Glance



*2022年3月期より、内視鏡事業の消化器内視鏡に分類していた気管支鏡につきまして、治療機器事業の呼吸器科に移管しています。2021年3月期の実績も同様の組み替えを行っています。



医療分野

 内視鏡事業	売上高 3,937億円	営業利益 988億円	営業利益率 25.1%
内視鏡事業は、医療分野における革新的な技術と製造技術で医療従事者の皆さまと共に歩んでまいりました。診断そして低侵襲治療において、より良い臨床結果を生み、医療経済にベネフィットをもたらし、世界の人々の健康やQOL向上に貢献してまいります。1950年に世界で初めてガストロカメラを実用化して以来、オリンパスの内視鏡事業は成長を続けており、現在では、軟性内視鏡、硬性鏡、ビデオイメージングシステムから、カスタマーソリューション、修理サービスに至るまで、さまざまな製品・サービスで医療に貢献しています。			
主な製品 - 消化器内視鏡ビデオスコープシステム - 外科手術用内視鏡システム - 手術用顕微鏡システム - リプロセス - 修理サービス - カスタマーソリューション (医療デジタルソリューション等)			

治療機器事業

 治療機器事業	売上高 2,318億円	営業利益 306億円	営業利益率 13.2%
治療機器事業は、医療分野における革新的な技術と製造技術で医療従事者の皆さまと共に歩んでまいりました。診断そして低侵襲治療において、より良い臨床結果を生み、医療経済にベネフィットをもたらし、世界の人々の健康やQOL向上に貢献してまいります。ポリープ切除用のスネア開発に始まり、さまざまな製品が疾患の予防、診断、治療に役立っています。			
主な製品 - 消化器科関連処置具 - 呼吸器科製品 - 泌尿器科婦人科製品 - 耳鼻咽喉科製品 - エネルギーデバイス - その他外科用シングルユース製品			

科学事業

 科学事業	売上高 959億円	営業利益 49億円	営業利益率 5.2%
科学事業は、ライフサイエンス分野、産業分野においてお客様のさまざまなニーズに応える製品・ソリューションを提供しています。ライフサイエンス分野では、顕微鏡システムで最先端の研究を支えています。また、産業分野では、工業用顕微鏡や工業用内視鏡に始まり、非破壊検査機器やX線分析装置に至るまで、多岐にわたる産業関連機器をラインアップしています。			
主な製品 - 生物顕微鏡 - 工業用顕微鏡 - 工業用内視鏡 - 非破壊検査機器 - 蛍光X線分析計			

その他事業

売上高 92億円	その他事業は、人工骨補填材等の生体材料、整形外科用器具などの開発・製造・販売等を行っているほか、新規事業に関する研究開発や探索活動に取り組んでいます。
--------------------	---

Our Products

早期診断

- 当社の主力製品である消化器内視鏡は、病変の発見・診断・治療の質や検査効率の向上を目指した技術を搭載することで、がんなどの消化器疾患の病変を初期の段階で発見することにも貢献しています。
- また、観察中に疑わしい病変が見つかった場合には、その部位を採取して病理検査を行うことが可能です。
- 最近では、内視鏡の拡大機能により、組織を傷つけることなく、その場で拡大画像から確定診断を行える可能性も期待されています。

拾い上げ



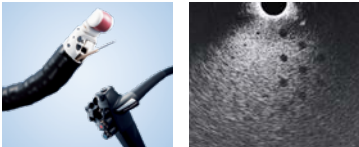
消化器内視鏡システム



診断



拡大内視鏡



超音波内視鏡



生検・採取



生検鉗子



細胞診ブラシ

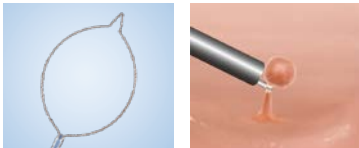


低侵襲治療

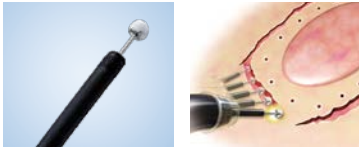
- 消化器内視鏡は治療用の処置具とともに使用することで、早期がんの治療をはじめとして、ポリープ切除、誤飲した異物の摘出など、さまざまな治療を行うこともできます。
- 泌尿器分野では、高齢化の進展に伴い増加が予想されている前立腺肥大症の治療機器として、切除手術なしでクリニックでも治療ができる機器を展開しています。患者さんの体内に異物が残存しない低侵襲な治療方法です。
- また、内視鏡を用いた外科手術（腹腔鏡手術）では、従来の開腹手術のようにおなかを大きく切る必要がなく、患者さんの感じる術後の痛みが少なく済むと言われており、入院期間の短縮や早期の社会復帰に貢献するなど、さまざまなメリットがあります。



内視鏡治療



スネア



高周波ナイフ



内視鏡外科手術



外科内視鏡システム



外科手術用
エネルギーデバイス

その他の低侵襲治療



前立腺肥大症
低侵襲治療デバイス



ツリウムファイバー
レーザー装置

オリンパスが解決する社会課題



190万人

大腸がんの罹患者数／年*1

*1 年間罹患者数・グローバル
出典: GLOBOCAN 2020



5,000万件

大腸内視鏡件数／年*2

*2 自社調べ。グローバル: 米国、カナダ、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、英国、日本、中国、韓国、オーストラリア、インド／データは地域により2018年あるいは2019年時点



100

適応可能な疾患数*3

*3 2021年3月現在



罹患者数の多いがん

治療機器を提供*4

内視鏡は、がんを発見し、治療する上で重要な役割を果たしています。例えば、大腸がんは、2020年のデータでは年間約190万人の方が新たに罹患しており、今後もこの数は増加が見込まれます。この大腸がんの診断・治療等のために大腸内視鏡検査は年間で約5,000万件実施されており、そのうち多くで当社の製品が使われています。

内視鏡は、病変の発見や診断だけでなく、処置、治療にも活用されます。消化器内視鏡の処置具以外にも、さまざまな診療科に向けた多種多様な治療機器を提供しており、当社の製品で約100の疾患に適応させることができます。罹患者数の多い上位5つのがんのうち、4つのがん（肺がん、胃がん、大腸がん、前立腺がん）*4への治療方法を提供するとともに、その他のがんの治療機器の開発も行い、世界の人々の健康のために貢献しています。

*4 2021年3月現在。出典: GLOBOCAN 2020 罹患者数1位の乳がんを除く

Our Market

内視鏡事業

消化器内視鏡

市場規模(成長率見通し)

3,500~3,700億円
(CAGR:4~6%)



外科内視鏡

市場規模(成長率見通し)

2,600~2,900億円
(CAGR:2~4%)



(注)本ページの市場規模、成長率見通しは自社調べ。市場規模は2021年3月末時点。成長率見通しは2021年3月期を起点に、2022年3月期から2024年3月期。
呼吸器科(キャピタル製品)および呼吸器科(シングルユース製品)の数値は、2020年12月に買収したVeran Medical Technologies社の影響を含みません。

治療機器事業

消化器科(処置具)



市場規模(成長率見通し)

3,000~3,500億円
(CAGR:5~7%)

*1 ERCP:内視鏡の逆行性胆道膵管造影術
*2 EMR:内視鏡的粘膜切除術
ESD:内視鏡的粘膜下層剥離術

泌尿器科(キャピタル製品)



市場規模(成長率見通し)

800~1,000億円
(CAGR:5~7%)

泌尿器科(シングルユース製品)



市場規模(成長率見通し)

2,000~2,500億円
(CAGR:5~7%)

呼吸器科(キャピタル製品)



市場規模(成長率見通し)

200~300億円
(CAGR:4~7%)

呼吸器科(シングルユース製品)



市場規模(成長率見通し)

200~300億円
(CAGR:6~8%)